

日刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

95.11.24 No. 4299

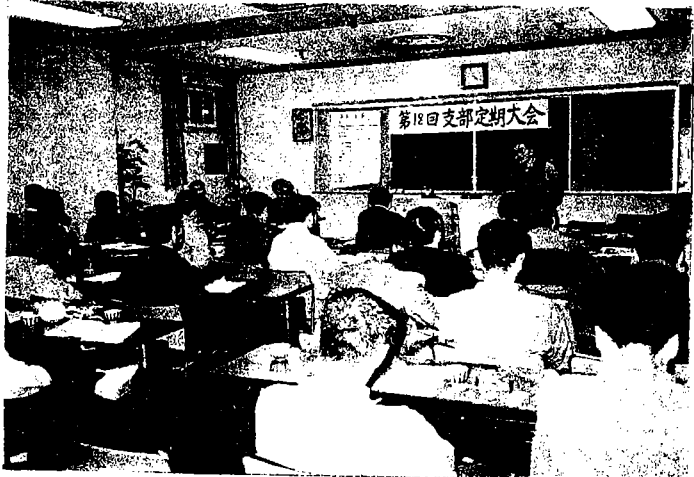
ストライキで団結を固めよう

館山支部第18回定期大会を開催(11/20)

十一月二十日、館山市静海荘において館山支部第一八回定期大会が開催された。

大会には支部組合員六〇名が参加し、「一人一人が活動家になり、全国にはばたこう」という動労千葉のスローガンをわがものとするための活動方針(案)が提起され、満場一致で採択された。

大会は、来賓として館山労働金庫の代表、水野正美勝浦市議、辻田実館山市議(祝電)、中野本部委員長を招き、冒頭笹生支部長より、「われわれの親愛なる仲間、勝浦運転区の組合員に対する配転の事前通知が強行されている。伝統ある職場勝浦運転区が廃止されることに對し、無念の思いである。この悔しさを



をストライキを通して、動労千葉の団結を固めることに全力を上げよう。また、強制配転された仲間、解雇された仲間の苦闘を受けとめ全力で闘う。本部のスローガンを館山支部のスローガンとした。この貫徹に向けて全力で闘おう」と力強いあいさつを行った。

また方針提起、会計報告をそれぞれ執行部から提起し、会計監査報告を鎌田監査員から受け

出された質疑は以下の通り、

●館山運転区の将来展望は、

●今まで内・外勤はスト対象とならなかったことがあったが、今回の戦術はすっきりした。本部に感謝する。

●鴨川運転区のJR総連の連中は許せない。スト破り抗議行動を行なうべきだ。

●社会党の新政構想は問題だ。オキナワの事態を考え、安保・自衛隊闘争を強化すべきである。

動労千葉の組合員が行くということではびびっているらしい。鴨川運転区に配転された仲間の苦闘を受けとめ、全力で頑張ろう！
以上の意見に対し、中野委員長から明確な答弁がなされ、組合員は食い入るように聞き入っていた。
なお、今回の大会で、会計監査員が鎌田正則さんから中村浩さんになりました。



津田沼配転差別地労委才は回審問開催(11/21)

十一月二十一日、一〇時より、

千葉地労委において、津田沼支部配転差別事件の審問が行われ、組合側証人に対する当局側反対尋問が行われた。

最初に、九一年三月の配転当時の支部長だった小倉邦夫君に對して尋問が行われたが、一九

一年三月の配転では、二九名の配転があり、その内動労千葉の組合員が二〇名、五名が役員であり、そこには支部の三役がはいっている。これは明らかに支部の弱体化を狙ったものだ」と、当局の反対尋問を弾劾した。
続いて、小倉君が配転された後支部長に就任した山田邦夫君

は、「千葉転から習志野運転区に転勤希望を出しているのは、

運動する路線も電車自体も変わり、非常に神経使い疲れるからだ」と、配転による身体への影響を述べ、当局側の尋問に反論を行った。

最後に田中書記長は、「運転区設置は、運転保安を無視している。当局は車掌との融和を図るといいますが、何の根拠もない」「千葉転の人員が増えるからいいのでは」という尋問は全く組合運動を無視したものであり、これが現在のJRの状況だ。我々はあらゆる戦術で闘う」と、当局側反対尋問に全面的に反論

を行った。

本件は、今回の審問で証人調べが終了し、来年早々には結審する予定である。津田沼支部を守りぬき、勝利命令の獲得へ全力で闘いぬこう。

交渉速報

東日本三・一五箇月を提案
動労総連合は、十一月二二日、東日本本社において、年末一時金に関する交渉を行い、当局は、基準内賃金の三・一五箇月分、十二月八日以降支払い、という提案を行なってきた。